

## ○プログラム名：小児科後期臨床研修プログラム

小児科における後期研修3年間の目標は、幅広い知識を要求される小児医学を網羅的に経験し小児専門医としての知識と技量を身に着けることである。特に小児は内科と異なり発育・発達を前提としての医療を学習する。

最終的目標として、小児専門医（現在全国で約25000人）の資格をとる。後期研修終了後すぐに受験する。小児専門医の取得における必要疾患は血液・神経・新生児・内分泌・代謝・感染・アレルギー・循環器とすべての分野にわたっており、これらの疾患を有機的に経験していく。専門医取得のためには小児科学会認定の研修指定病院での研修が必要であり、当院は指定病院となっている。現在まで受験資格があった全員が合格している。

研修を行う全員が救急蘇生（PALS）、脳波・ABRなど生理検査、小児画像診断、超音波（心臓・腹部）、呼吸管理を習得する。その他に神経発達の評価、腎・肝生検、心臓カテーテル検査、骨髄像などの研修を行う。また、ICU管理では集中治療部などの他科と連携し、低体温療法、血液浄化療法の研修を行う。

呼吸管理・新生児・未熟児の管理の研修は当院NICUと日赤医療センターで行う。地域医療研修では分院または本院にてワクチン・乳児検診を含め一般小児科の研修を行う。

希望者には遺伝診断（シーケンス、PCR）、ウイルス診断同定、サイトカイン測定（ELISA）、Western blottingなどの基礎的分野の指導を受けることも可能である。

現在、小児科学教室は小児科専門医の他に、subspecialtyの専門医（小児神経科専門医、日本てんかん学会臨床専門医、感染症専門医、アレルギー専門医、遺伝カウンセリング専門医など）を擁している。これらのsubspecialtyの専門医を取得するために必要な年限も本研修中の年限に含まれるため、研修中の担当した患者および研修内容は症例などとして使用可能である。現在、小児領域のほとんどでsubspecialtyの専門医が設立されつつあり、周産期専門医・小児栄養消化器肝臓専門医・リウマチ専門医・小児呼吸器専門医等が小児科学会各分科会で準備され随時取得予定となっている。

○勉強会	脳波勉強会	1ヶ月に1回
	レントゲンカンファレンス	2ヶ月に1回
	ウイルス感染症勉強会	3ヶ月に1回
	研修症例発表会・予演会	週に1回

## ○学会発表

研修期間中は学会発表を積極的に行う。（年平均3-4回）

## ○研修内容

	中心となる研修内容
1年目	大学本院での研究
2年目	当院NICUおよび日赤医療センターでの新生児・未熟児医療研修及び地域医療研修（八王子・霞ヶ浦・蕨市立病院ほか）
3年目	当院ならびに地域医療研修（八王子・霞ヶ浦・蕨市立病院ほか）分野により臨床コース、学位取得コース（下記）

これらの3年間の研修終了後（分野によっては2年後より）subspecialtyの技量を確立するため他病院や他の施設での臨床研修と平行して学位取得のための研究を開始する（各コースが用意されている）。主な小児の専門医は後期研修終了後2から3年目に受験資格が得られる。

## ○臨床コース（6ヶ月から1年程度）

1. 日本赤十字医療センター	新生児
2. 葛飾赤十字産院	新生児
3. 東京女子医大周産期センター	未熟児・新生児

- |   |                    |
|---|--------------------|
| 4. 東京女子医大心臓血圧研究所                          | 循環器                |
| 5. 東京女子医大腎センター小児科                         | 小児腎疾患              |
| 6. 都立梅が丘病院（児童精神科）                         | 小児精神疾患             |
| 7. 国立国府台病院児童精神科                           | 小児精神疾患             |
| 8. 成育医療センター                               | こころの診療部<br>内分泌・代謝部 |
| 9. 岡山大学小児神経科                              | 臨床てんかん学            |
| 10. 東京大学医科学研究所                            | 小児の血液疾患・悪性腫瘍       |
| 11. 聖マリアンナ医科大学呼吸器内科                       | 大人の呼吸器疾患           |
| 12. 国立精神神経センター<br>武蔵病院（神経・筋疾患）<br>精神神経研究所 | 神経・筋疾患<br>精神専門     |
| 13. 東京医大皮膚科                               | 小児皮膚疾患             |

## ○周産期専門コース

周産期専門医を志望する場合 3 年目の NICU 勤務。

## ○基礎研究コース（博士号取得希望者にはこの期間より研究を開始）（1 年から 1 年半程度）

- |                      |              |
|----------------------|--------------|
| 1. 小児科研究室            | 感染・免疫        |
| 2. 東京医大免疫学教室         | アポトーシス       |
| 3. 東京医大公衆衛生学教室       | 近赤外線を使った運動生理 |
| 4. 内科学第 1 講座         | 血液・悪性腫瘍      |
| 5. 北里研究所ウイルス 1 室     | ウイルス遺伝子の解析   |
| 6. 国立精神神経センター        | 神経・筋疾患、神経病理  |
| 7. 神奈川県立こども医療センター病理部 | 小児病理         |
| 8. 国立小児病院・小児医療研究センター | 先天異常の遺伝子解析   |
| 9. 自治医大血液内科          | 遺伝子治療・研究     |
| 10. 東京薬科大学           | 気管支喘息の研究     |

その後一定期間勤務後に希望者は海外研修を行う（1-2 年）（後期研修終了後）

## ○現在までの主な留学先は

- |                   |          |
|-------------------|----------|
| 1. オクスフォード大学      | 臨床脳波学    |
| 2. ロンドン大学         | シグナル伝達   |
| 3. フィラデルフィア小児病院   | 感染免疫     |
| 4. セントポールてんかんセンター | 臨床てんかん学  |
| 5. カロリンスカ研究所      | アポトーシス   |
| 6. パスツール研究所       | 遺伝子・先天異常 |

## その他：

- ① 当直は 1 ヶ月当たり 5 コマ、平日（3 回）、休日（日勤 1 回、当直 1 回）、翌日は午後より帰宅可を原則とする。
- ② 院外勤務は 1 日前後。